

令和7年度

いじめ等の問題について考える集会 (小学校集会) 配付資料

日 時 令和7年10月31日(金)
14時15分～15時15分

会 場 函館市立昭和小学校
函館市立中央小学校
函館市立北美原小学校
函館市立港小学校



函 館 市 教 育 委 員 会

令和7年度「いじめ等の問題について考える集会（小学校集会）」 開催要項

1 目的

「函館 いじめ見逃しゼロへ～傍観者が勇気をもって、仲裁者や相談者に転換できるように～」をテーマに、各学校の取組の交流やテーマに係る協議等を行い、いじめの未然防止、早期発見・早期対応や家庭・地域と連携した対策を推進することで、本市における「いじめ見逃しゼロ」の取組の一層の充実を図ることを目的とする。

2 日時

令和7年10月31日（金）14時15分から15時15分

※ 接続リハーサル

令和7年10月28日（火）15時20分から15時35分

3 会場

※ WEB会議システムを活用した集会

- ・函館市立昭和小学校
- ・函館市立中央小学校
- ・函館市立北美原小学校
- ・函館市立港小学校

4 参加対象

- ・昭和小学校，中央小学校，北美原小学校，港小学校の代表児童
学校教職員，保護者 等
- ・函館市いじめ防止対策審議会委員

5 内容

(1) 交流：自校の取組の紹介

(2) 協議：「いじめ見逃しゼロを目指して、私たちができること」

14:15 14:20

14:40

15:10 15:15

開	交 流	協 議	閉
会	(20分間)	(30分間)	会

6 その他

- (1) 接続確認リハーサルにつきましては、別途お知らせします。
- (2) 集会当日は、14時05分には接続準備を完了するようお願いします。

函館市立港小学校 発表用資料

① 学校の取組

1 あいさつ運動

- 朝のあいさつ運動を計画的に実施しました。登校してきた児童一人ひとりに、委員会のメンバーが率先して元気な声で挨拶を交わしました。
- 活動を通じ、学校全体が明るく活気に満ちた雰囲気になりました。「気持ちの良いあいさつ」が、お互いの存在を認め合う第一歩となることに気がつきました。
- このあいさつ運動での具体的な体験や感想をもとに、児童集会で「あいさつが人間関係を築く上でいかに大切か」「明るい声かけが、いじめの芽を摘む温かい雰囲気作りに繋がる」ということについて全校児童に伝え、あいさつで温かい気持ちになると、いじめも起こりにくくなることを確認しました。

2 いじめはなぜ起こるのかについてアンケート

- 3年生から6年生に、いじめについて真剣に考えるため「どうしていじめが始まるんだろう？」「どうすればいじめを止められるんだろう？」ということ聞ききました。
- アンケートの結果、「ちょっとしたからかいや、軽い気持ちで言った一言」が、だんだん大きないじめになってしまうことや、「自分は軽い気持ちでも、相手はとても傷ついている」という、いじめの怖さを知りました。
- この結果を受けて、「普段の生活で、自分の言葉や行動が、誰かを嫌な気持ちにしているかな？」と、いつも意識して過ごすように気をつけることを確認しました。

3 いじめについて呼びかけるポスター（11月に作成予定）

今回の集会を通して話し合う内容（いじめ見逃しゼロ）を意識しながら、全校生徒にいじめについて呼びかけていく予定です。

② いじめ見逃しゼロを目指して、私たちができること（傍観者について考える）

いじめを見たら、見て見ぬふり（傍観者）をやめます。「これはおかしい」と感じたら、勇気を出してすぐに声をかけ、やめるように止めます。もし、自分一人で難しいときは、先生など信頼できる大人に必ず伝えます。

私たちは、この行動を全校で続け、「いじめを許さない、見逃さない」という強い気持ちを広げます。みんなで温かい学校を作り、いじめゼロを目指します

函館市立昭和小学校 発表用資料

① 昭和小学校の取組

●児童会が中心となって行っている日常の取組

①毎朝の児童玄関での「あいさつ運動」（生活委員会が担当）

“すてきなあいさつがあふれる昭和小学校”を目指して、
「『目を見て』『先に』『明るい声で』あいさつしよう」・・・を合い言葉にして、校内、校外で運動を展開しています。

全校のみんなが、気持ちのよいあいさつをかわすことによって、友だちの輪を広げていくというねらいがあります。

②中休みのお楽しみ企画「じゃんけん列車」（代表委員会が担当）

1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生の
ような組み合わせで、2つの学年がいっしょに体育館
で遊び、交流を深めます。

③朝のお楽しみ企画「お絵かきクイズ」（代表委員会が担当）

1年に2回、代表委員が3～4名ずつに分かれ、すべての
学級に行き、お絵かきクイズなどの楽しい時間を作ることで、交流を深めます。

④全校児童のことを紹介する「夏休みの思い出コーナー」（代表委員会が担当）

今年はじめて取り組みました。夏休みの思い出を全校で募集したところ、たくさん集まりました。玄関ホールに掲示し、全校児童で見合うことで、夏休みの楽しみ方もいろいろあることに気づくことができました。

② いじめ見逃しゼロを目指して、私たちができること（傍観者について考える）

いじめをなくすためには、自分のことだけではなく、「相手を思いやること」がとても大切なことだと思います。そのために、「いろいろな子と友だちになること」に注目したいです。あまり話したことがない子に「おはよう」と言ったり、ひとりである子に「いっしょに遊ぼう」と声をかけたりすることも、きっとだれかの心をあたたかくすることができると思います。

このような「友だちの輪」ができることで、もしもだれかが意地悪をされていたり、ひとりぼっちになっていたりするのを見た時、見て見ぬふりをしない自分になっていると思います。例えば、意地悪をしている人に「やめようよ」と声をかけたり、先生やおうちの人に知らせたり、ひとりぼっちでいる子に「いっしょにいよう」と声をかけたりすることができるのではないか、と思います。

いじめをなくすためには、学校のみみんなが力を合わせる大切が必要です。私たちひとりひとりがふだんから、いじめの問題について、真剣に考えていきたいと思っています。

函館市立中央小学校 発表用資料

① 函館市立中央小学校の取組

1. 児童会の活動

- ・児童会の活動目標「元気いっぱい笑顔であふれた学校にしよう」
「あきらめない心で楽しく進もう」

①あいさつ運動

1学期は生活委員会が中心となって、あいさつ運動を行いました。
2学期も引き続き行う予定です。

【取り組むことの意味】

元気いっぱい笑顔であふれた学校を目指すには、まずは元気なあいさつがあふれる学校を目指します。

②なかよしプロジェクト

1回目の仲よしプロジェクトでは、低学年・中学年・高学年ごとに児童会が企画するレクを行うことで交流を行いました。

2回目は1～6年生を縦割りグループに分けて交流活動を行う予定です。

【取り組むことの意味】

学年の垣根を越えて、学校全体が仲良くなることができます。ちょっとしたことでも気になることがあったら声を掛け、話しやすい雰囲気ができると思います。

2. 各学年の取り組みの紹介

①低学年

2年生は学活の時間を使って、
「みんながえがおでくらせる学校」について考えました。

②高学年

6年生は道徳の「わたしのせいじゃない」という教材の学習で、「いじめを断ち切るために大切なこと」について考えました。



② いじめ見逃しゼロを目指して、私たちができること（傍観者について考える）

1. いじめられている人に寄り添う

「大丈夫?」と声をかけたり、隣に座ったり、一緒に遊んだりするだけでも力になります。

2. 信頼できる人に相談する

先生や家族、スクールカウンセラーなど、信頼できる大人に助けを求めましょう。

事実を伝えるだけでも、大人が気づききっかけになります。

3. いじめが起きないクラスにするための「普段からの心がけ」

いじめが起きてから行動するだけでなく、いじめが起きにくい「空気」をみんなで作ることがとても大切です。

函館市立北美原小学校 発表用資料

① 北美原小学校の取組

1. 「自分から」あいさつができる学校に

最初は、異動してきた先生方が「この学校はあいさつする子が少ないね」と言うくらい、あいさつをする習慣がついてなかったので、生活委員会の力も借りて、学期はじめなどの節目にあいさつを強化する時期を設けて取り組んだ。先生方に対してだけでなく、児童同士もあいさつをするよう、声をかけた。

【ねらい】

お互いに無関心なところから「傍観者」が生まれると思うので、まずあいさつをすることで周りに関わる第一歩を踏み出すことを目標とした。

2. いじめ防止ポスター

教育相談期間をきっかけに、校内からいじめをなくすための呼びかけをするポスター作りに取り組んだ。

【ねらい】

みんながよく目にする場所にポスターを貼り、度々「いじめはダメ」というメッセージを視覚的にとらえることで、いじめに対する意識を高め、いじめをしてはいけないという気持ちを全校に広げていく。

3. ありがとうの木

学級ごとに木を描いた大きな台紙を準備し、友達にしてもらって嬉しかったことや感謝していることを葉の形をした小さな紙に書いて、木の枝に貼っていく。それぞれの学級がその木にどんどん優しさの葉を茂らせていくという取組。

【ねらい】

お互いに優しくしてもらったことなどを書いて視覚化することで、学級・学校全体の雰囲気をよくするとともに、もっとお互い優しくなろうという気持ちを育てる。

② いじめ見逃しゼロを目指して、私たちができること（傍観者について考える）

○未然に防ぐ

校内でいじめそのものが起こらないよう、普段からお互いに関わりをもち、よりよい人間関係づくりに努める。 →1・3の取組

○いじめは「ダメ」と言う気持ちをもって、自分にできることをする

一人だと「止めたりしたら次は自分が」とこわくて言えないが、いじめは「ダメ」と思う人、言える人が何人もいる集団をつくる。 →2の取組

どうしても直接言えない場合は、友達、先生、親、いじめ相談窓口などに相談して、間接的に止める努力はできるのではないだろうか。